

2 研究の実際 > (2) 授業の実際

力 検証結果<中学校A>

【検証の視点 I】

生徒が持つ「強み」に着目した交流活動が自己肯定感の高まりにつながったか。

【検証の視点 I-A : 「自分自身に関する自己肯定感」に関する項目】

オ 検証内容と検証方法 について

↑こちらをクリックすると、検証内容と検証方法を見ることができます。

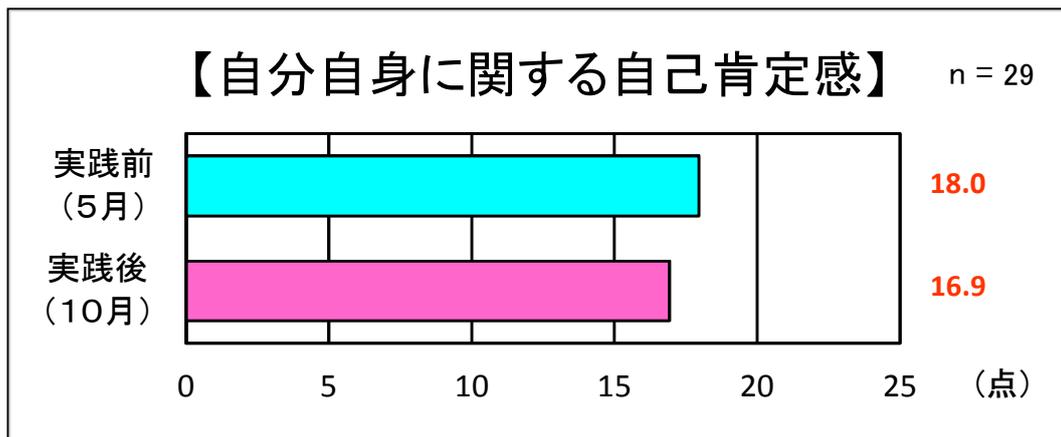


図1 生徒の「自分自身に関する自己肯定感」に関する意識と行動の変化 (全体)

○授業実践の前後で、全体では数値が1.1ポイント下がりました(図1)。項目別では、「自分の長所も短所もよく分かっている」が0.5、「今の自分に満足だ」が0.3ポイント下がりました(図2)。しかし、「自分の中には様々な可能性がある」が0.1ポイント上がりました(図2)。これは文部科学省調査「日本の子供たちの自己肯定感が低い現状について」における思春期に自己肯定感が低下するという結果と同じ傾向であると考えます。しかし、生徒の振り返りシートには、「好きなことは自分の『強み』だと分かった」「気付かなかった自分をたくさん発見できた」「自分の『強み』と弱みを知ることができた」という記述が多く見られました。これらのことから、今後も生徒が持つ「強み」に着目した交流活動を通して、生徒が自分の「強み」に気付くことにより、「自分自身に関する自己肯定感」を高めることができると考えます。

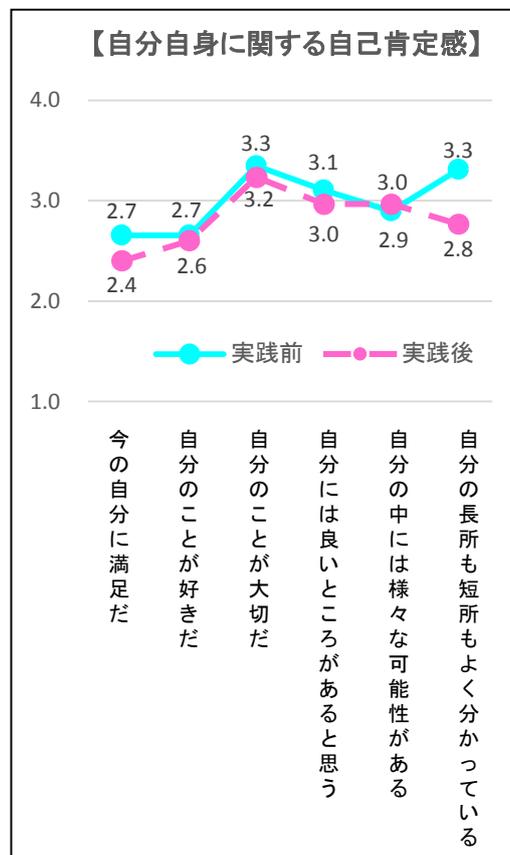


図2 生徒の「自分自身に関する自己肯定感」に関する意識と行動の変化 (項目別)

【検証の視点 I-B : 「友達との関係を通じた自己肯定感」に関する項目】

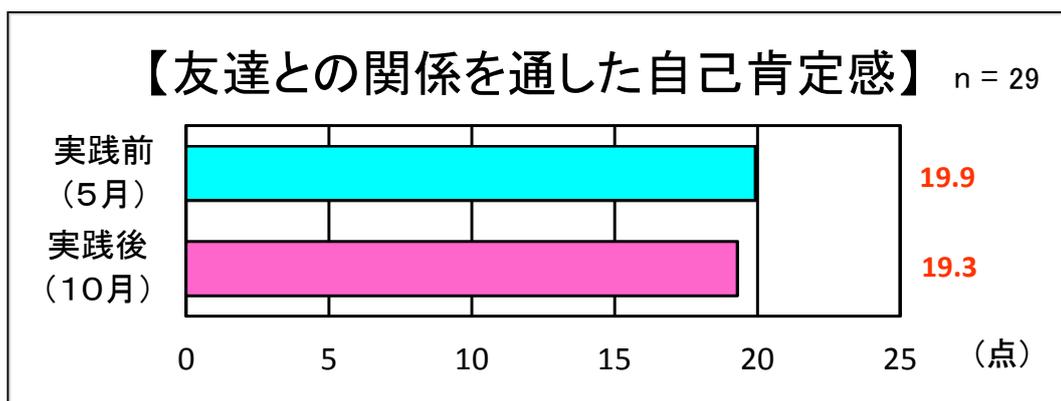


図3 生徒の「友達との関係を通じた自己肯定感」に関する意識と行動の変化 (全体)

○授業実践の前後で、全体では数値が0.6ポイント下がりました(図3)。項目別では「友達の意見を素直に聞くことができる」が0.2ポイント下がりました(図4)。中学生の発達段階では、自分と他者とを比較したり他者からの評価を気にしたりする傾向が見られ、自己肯定感の低下に影響したと考えます。しかし、生徒の振り返りシートには、「自分の『強み』と友達の『強み』を知ることができて良かった」「友達の『強み』を参考にして、自分のプラスになるようにしていきたい」「友達からのアドバイスをやってみようと思った」という記述が多く見られました。これらのことから、今後も生徒が持つ「強み」に着目した交流活動を通して、生徒が自分の「強み」を友達から伝えてもらうことにより、「友達との関係を通じた自己肯定感」を高めることができると考えます。

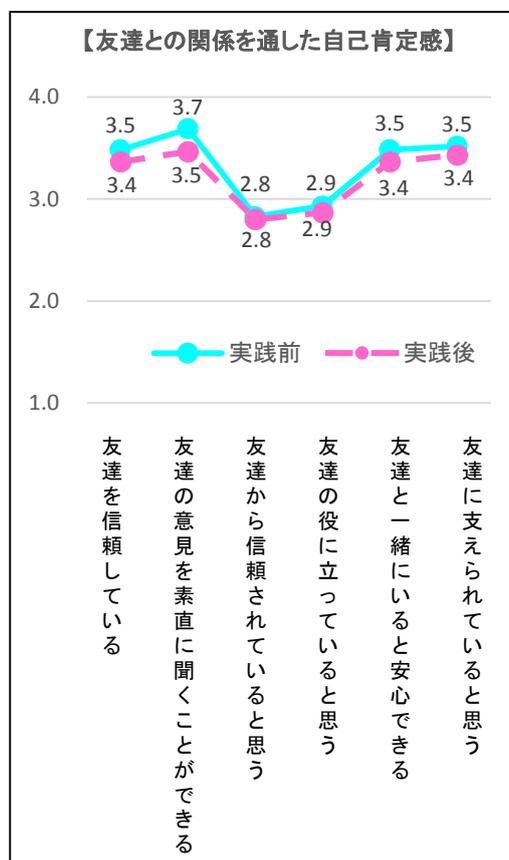


図4 生徒の「友達との関係を通じた自己肯定感」に関する意識と行動の変化 (項目別)

【検証の視点Ⅱ】

生徒が持つ「強み」に着目した交流活動が互いに自他のよさを認め合うことのできる人間関係を築くことにつながったか。

【検証の視点Ⅱ－A：学級の雰囲気】

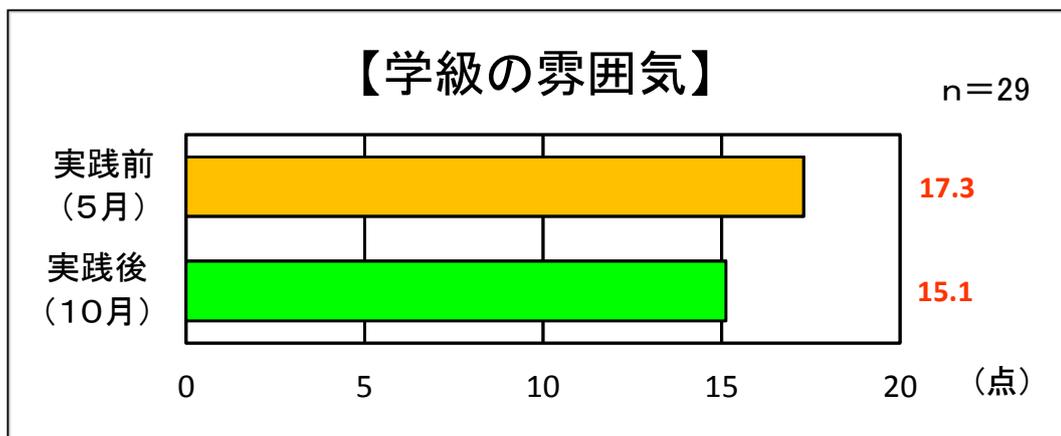


図5 生徒の「学級の雰囲気」に関する意識と行動の変化（全体）

○授業実践の前後で、全体では数値が2.2ポイント下がりました（図5）。項目別でも、「だれかが悲しむ言動はない」で0.8、「ルールが守られ、みんなが気持ちよく過ごせている」「問題をみんなで考え解決しようとしている」は0.5ポイント下がりました（図6）。しかし、生徒の振り返りシートには、「班の人と協力してできてとても良かった」「友達のことをもっとよく知りたいと思った」「これからも自分の『強み』と友達の『強み』を見付けていきたい」等、友達のことをもっと知りたいという記述が多く見られました。これらのことから、数値に好転は見られなかったものの、生徒が持つ「強み」に着目した交流活動を通して、生徒が互いに自他の「強み」を伝え合うことにより他者理解を深め、今後、「学級の雰囲気」が良くなっていくと考えます。

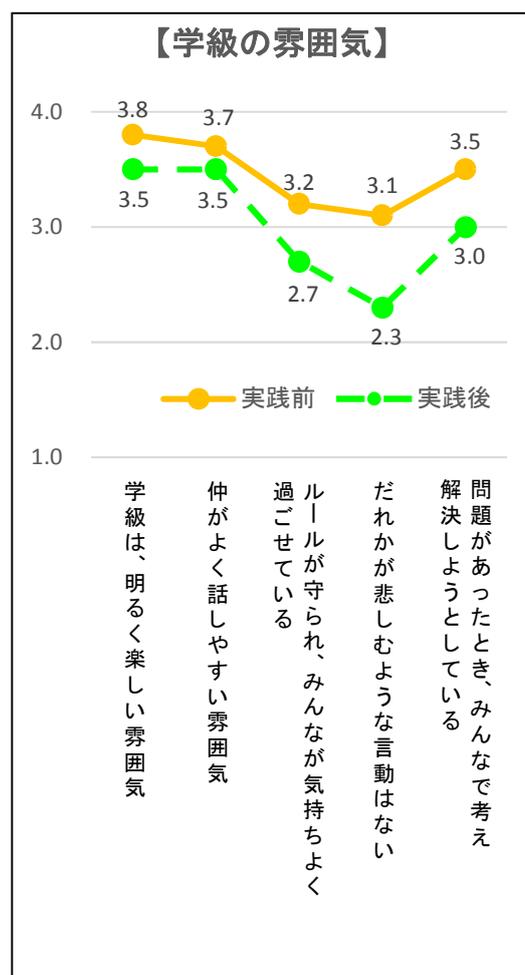


図6 生徒の「学級の雰囲気」に関する意識と行動の変化（項目別）

【検証の視点Ⅱ－B：友達との関係】

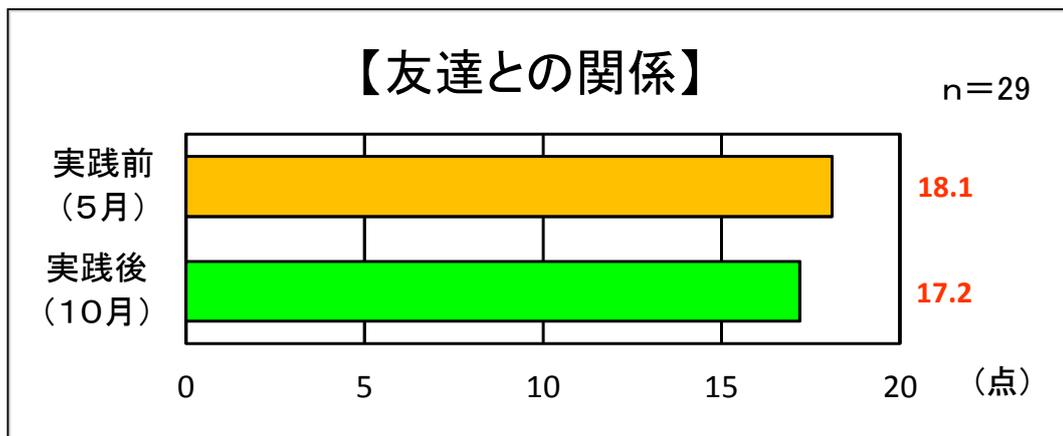


図7 生徒の「友達との関係」に関する意識と行動の変化（全体）

○授業実践の前後で、全体では数値が0.9ポイント下がりました（図7）。項目別でも、「悪口や暴力などで傷付けられることはない」で0.3、「『遊ぼう』と声を掛けてくれる友達がいる」「困っているときに助けてくれる友達がいる」「秘密や約束を守ってくれる」で0.2ポイント下がりました（図8）。しかし、生徒の振り返りシートには、「友達から『強み』を教えてもらったときは嬉しかった」「友達のいいところを見付けていきたい」「友達からの様々なアドバイスを生かしていきたい」という記述が多く見られました。これらのことから、数値に好転は見られなかったものの、生徒が持つ「強み」に着目した交流活動を通して、生徒が互いに自他の「強み」を伝え合うことで感情の交流や相互理解を深め、今後、学級における「友達との関係」が良くなっていくことが期待できると考えます。

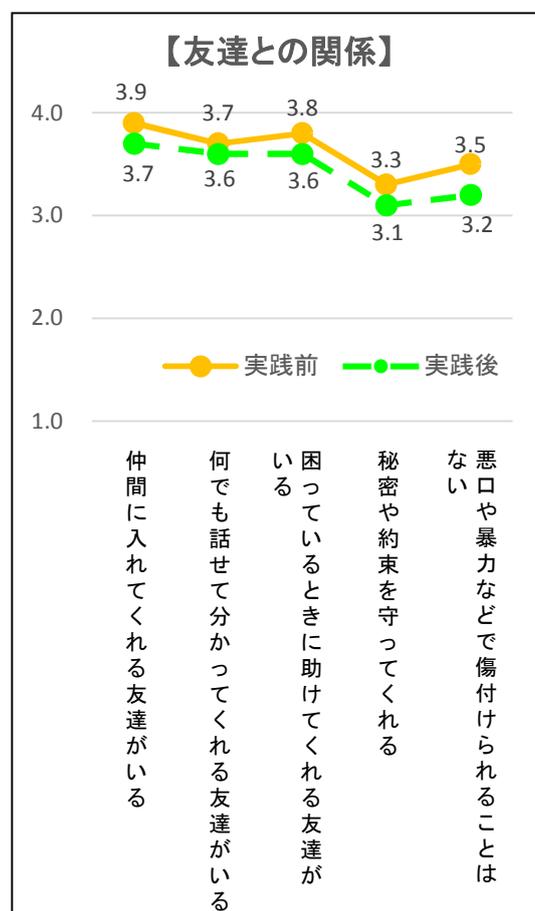


図8 生徒の「友達との関係」に関する意識と行動の変化（項目別）